

令和3年度

学校評価シート

学校名：和歌山県立笠田高等学校

学校長名：森下兼男

(別紙様式)

めざす学校像 育てたい生徒像		教育活動全体を通じて、豊かな人間性を育み、保護者や地域から信頼される学校。 「知」「徳」「体」のバランスがとれ、最後までやりぬく気力あふれる生徒。		中期的な 目標	○2学期中の80%以上の教員の公開授業実施。 ○生徒自身に明確な目標を持たせた粘り強い進路指導。 ○生徒指導について、全職員による指導内容の再確認と課題の洗い出し。 ○かつらぎ町長、教育長との懇談会の実施。		達成 度	A	十分に達成した。 (80%以上)	
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)		1 主体的な学習の推進と授業改善への積極的な取組			学校評価の結果と改善 方策の公表の方法			ホームページやマンスリータイムズに掲載し、教職員や生徒、保護者、学校運営協議会委員、学校近隣の地域住民等に広く公表した。		B
		2 安全・安心な学校づくり（新型コロナウイルス感染症対応）		C						あまり十分でない。 (40%以上)
		3 生徒指導の充実		D						不十分である。 (40%未満)
		4 地域との連携強化								

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。
2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。
3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末（3月）に実施した結果を記載する。
5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					令和3年12月～令和4年1月 実施		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	授業に真剣に臨む生徒が大半であるが、家庭学習不足や、将来を見据え主体的に学習に取り組む意識は低い。教員には基礎学力の充実と主体的な学習を喚起する取組が求めている。また、ICTを活用した授業にも教員によりばらつきがある。	生徒自身に目標を明確に持たせ、自ら意欲的に学ぶ姿勢を育むことができたか。ICTを活用した授業改善について、教員個々や教科として積極的に取り組んだか。	生徒の学力や学習意欲の実態を正確に把握し、長期的視野に立った指導を行う。 生徒の進捗や能力に応じた適切な家庭学習課題の提供。 ICT器機の活用、及び、課題解決型学習を中心とした授業改善の推進。	様々な方法を用いて、生徒自ら学ぶ意欲や姿勢を醸成することができたか。 家庭学習のための課題の2割増。 各教科の研究・公開授業のうち、60%以上でICT器機が活用されたか。	夏季休暇後半に、リモート学習実施に向け校内研修とハード面の整備に全校をあげて取り組んだ。このため2学期前半の分散登校、リモート学習を非常にスムーズに行うことができた。反面、コロナの影響もあり、生徒自ら学ぶ意欲や姿勢の醸成、公開授業については、目標に達しなかった。	B	ICT器機の活用が、教員からの一方通行の授業にならないよう教材の工夫や教員個々の操作技術向上のため、さらなる研修等が必要である。管理職主導で進めている研究・公開授業について、教科や教務部主導または、新たな研修担当部署の設置等の工夫が課題である。
2	新型コロナウイルス感染症拡大収束の兆しが見えないなかで、本校生徒や学校関係者への感染防止に努めることが喫緊の課題である。また、平行して日頃の授業をはじめ、学校行事等をいかに平常に近い形で実施できるかも大きな課題である。	感染防止に教職員、生徒、保護者が一体となり取り組んだか。感染防止を図りながら、生徒中心の学校行事が実施できたか。感染が発生した場合の拡大防止策や生徒への心のケアは適切であったか。	健康観察票の記入・点検、手洗い、手指消毒、及び、換気の徹底。 生徒や保護者の理解と協力の元での学校行事の実施。 感染に備えた保健所提出用データの準備・蓄積。	消毒と各部屋の2箇所換気が徹底されたか。健康観察票の点検を毎日行ったか。 学校行事は生徒の満足が得られたか。保護者と密に連絡が取れたか。 準備・蓄積されたデータは、常に最新・正確であったか。	コロナ感染防止のため、各部屋の換気や健康観察を徹底した。感染発生時の対応では、保健所や県教委の指導のもとで生徒・保護者の理解と協力を得つつ感染拡大を最小限に抑えることができた。また、学校行事については、保護者など外部の参加は叶わなかったものの時期の変更や内容の工夫で殆どが実施できた。	A	コロナ感染拡大時期の黙食や手指消毒は、さらなる徹底が必要である。また、コロナの影響で社会や学校生活が大きく様変わりしており、これによるストレスなど生徒への影響は様々あると思われる。SCやSSW、保護者とも連携し、学校をあげて生徒の状況把握と様々なケアが必要である。
3	校内は落ち着いているが、女子のスカート丈や一部授業をおろそかにしたり清掃が行き届いていない部分がある。これらについて、全教職員による統一した指導が課題である。また、友人関係や家庭の問題等で悩みを抱える生徒も増加傾向にある。	生徒自ら自覚的に行動に移せるような指導ができたか。教職員の指導に偏りがなかったか。多様な生徒の実態を正確に把握し、個々に応じた指導ができたか。	服装やマナーについて、全教員の共通理解と統一的な指導の強化。 授業規律を保つとともに、チャイムスタートの徹底。 スクールソーシャルワーカーやカウンセラーの有効活用と担任のみに偏らない指導。	副担任と生徒指導部による校門での「身だしなみ指導」を月5回以上行ったか。 生徒の始業チャイム時の着席率80%以上。 管理職への報告と関係職員間での情報共有が、正確・迅速であったか。	各教員が機会あるごとに身だしなみ指導を行った。授業については、一部学年で課題を残したが、ほぼ落ち着いている。今年度配置されたSSWは、学校と外部機関とのスムーズな情報共有の仲立ちを果たし、非常に効果が上がった。校内での情報共有も正確・迅速であった。	B	身だしなみ指導、始業時のチャイム着席率ともに目標値を達成できなかった。全教員によるさらなるきめ細かな生徒指導が課題である。友人や家庭環境に悩みを抱えた生徒や全日制の教育環境に馴染めない生徒は増加しており、SCやSSWとの連携が更に必要である。
4	本校は、地域に根ざした学校として評価されてきたが、近年少子化の影響もあり地元の生徒数が減少し、地域性がやや薄れてきている。学校運営協議会の活用や地元かつらぎ町との連携により地域性を再度強める必要がある。	学校運営協議会の活用や地元かつらぎ町、小・中学校と緊密な連携が図れたか。学校の教育活動が地域に理解され、様々な協力が得られたか。	学校運営協議会の活用による学校の活性化。 かつらぎ町との様々な情報共有と連携の強化。 地元小・中学校と連携し、教育課題の共有、解決策を模索する。	課題について、具体的な解決策を見い出せたか。 防災面で積極的な連携を図ることができたか。 授業改善や生徒理解に向けた小・中・高連携の研究授業、公開授業を行ったか。	コロナ禍のなかであったが、商業科が取り組む地元小学生対象のパソコン教室や道の駅での販売実習に加え、地域の祭り太鼓指導など地域連携に積極的に取り組んだ。学校運営協議会と小・中・高連携の研究授業は、回数、内容とも満足できるものではなかった。	B	地域との連携は商業科の取組が大半であり、普通科生徒の参加は文化クラブの一部に限られており、普通科での工夫が課題である。また、来年度からの新カリキュラム実施による生徒の希望の進路実現が、地域に根ざした学校を目指すうえで不可欠である。

1 教職員
ほぼ全ての項目で「十分である」の評価が下がった。教職員の意見に耳を傾けつつ、全体を見渡した学校運営が必要である。
①学校行事や考査等の日程に関する意見。
②働き方改革に関する意見。
③身だしなみ指導に関する意見。

2 生徒
「本校に誇りを持っている」をはじめ、全ての項目で評価が昨年度より上昇した。新型コロナの影響はあるものの、昨年度より多くの学校行事を実施できたことも高評価につながった要因であると思われる。
①コロナが早く終息し、正常な学校生活を望む意見。
②校則の厳しさに対する意見。
③進路指導の充実や清掃等校内美化の徹底を望む意見。

3 保護者
全体的に肯定的な意見が多かったが、約半数の項目で評価が下がった。
①リモート学習や感染対策など、学校のコロナへの様々な対応への感謝の言葉。
②進路指導や身だしなみに関する意見。

4 地域住民
学校と地域との連携に関する意見や提案が増えた。常に地域住民から注目をいただいている表れであろうと思う。
①地元自治区の祭り太鼓への協力や商業科の販売実習など、様々な地域との関わりを肯定する意見。
②生徒の通学や保護者の送迎マナーに関する意見。
③学校から校外への積極的な情報発信を望む意見。

5 学校運営協議会委員
新型コロナ対応や本校存続を望む意見、存続のために学校と地域との連携の重要性についてアドバイスをいただいた。